

完済が近づく特別金利! 2008年12月26日まで
 キャンペーン **金利 年利 5.8%~14.5%**
※2008年12月26日までご契約の、お方が対象です。本コンテンツの登録人物・設定等は全て架空のものです。

かんさいじん **完済人** はじめます。
 東京スター銀行 **おまとめローン** バンクベスト
 詳しくはコチラ▶

MSN 公式 |



コミュニティ



コミュニティ ホーム | お気に入りのコミュニティ | 言語 | ヘルプ

⚠ 重要なお知らせ
 MSN コミュニティ サービスは、2009 年 2 月をもちまして終了させていただきます。MSN のオンライン コミュニティ パートナーである Multiply にコミュニティを移行できます。詳細については、こちらをご覧ください。

www. 文法レベルでの自然学会. jp

grammar@groups.msn.com

新着情報



国際文法裁判所：デヴィッド・ボーム著「断片と全体」
 掲示板の一覧を表示

今すぐ参加

◀ 前の話題 次 の話題 ▶

☐ 返信を受信トレイに送信

Migration Message

文法レベルでの自然

定義の更新

中心問題群

中心問題解決案

思索の歴史

国際文法裁判所

標準の掲示板

物理論理学

宇田雄一語録

バンドの電脳言語者

Web リンク集

[ツール]

返信	おすすめ	メッセージ 1 / 22
投稿者: SourceCodeOf HumanGenome (元のメッセージ) 投稿日時: 2006/05/28 19:01		
著者: デヴィッド・ボーム 解題: 村上陽一郎 訳: 佐野正博 発行: 工作舎 第一刷1985年、第四刷1996年 原著: 1976 年		

◀ 最初の返信 ◀ 前へ 2-7 通を表示: 総返信数 22 通 次へ ▶ 最新の返信 ▶

返信	おすすめ	メッセージ 2 / 22
投稿者: SourceCodeOf HumanGenome 投稿日時: 2006/06/16 16:28		
まず、 ボームが言う「分割不可能な全体性」という概念が、 宇田の言う「分解不可能な量子歴史」における「分解不可能」の概念を、 先取りしたものであるか否か、 を判断します。		

返信	おすすめ	メッセージ 3 / 22
投稿者: SourceCodeOf HumanGenome 投稿日時: 2006/06/16 17:44		
PART 1 : A - 1, 2, 3, 4 この部分を今日は調べてみました。 16ページ12,13行目 「・・・互いに関連を持たないばらばらな諸断片から 世界や人間が実際に構成されていると考えられるようになり、・・・」 18ページの9~11行目		

「・・・思考の中の差異や区別が現実的な分割とみなされ、世界は実際に諸断片に分割されて見えるようになる。また、そのように経験されることになる。」

25ページの1,2行目

「・・・世界はばらばらの諸断片から実際に構成されているという幻想に陥ることになる。」

25ページの6,7行目

「全体性が現実である。断片化とは、断片的思惟によって形成された誤った認識に基づく行為に対する全体性の反応なのである。」

26ページの7行目

「・・・実在があたかもばらばらの諸断片から構成されているかのようになってしまうのである。」

27ページの11～13行目

「実在全体が実際には多かれ少なかれ機械的に作用しあっている単なる「原子という構成要素」から成るとする考え方・・・」

28ページの1～3行目

「脳、神経系、精神などをもつ人間も含めて、自然全体をばらばらな原子の集合体の構造や機能という観点から完全に理解しようというその内容・・・」

28ページの10,11行目

「量子論は、きわめて小さな領域まで原子的粒子によって記述し理解しようとしてもほとんど意味がないことを示している。」

28ページの13行目から29ページの1行目

「原子は、明確な境界をもたない雲のようなものとみなしうるのである。観測者と観測対象との間の分割を主張することはもはやできない。観測者と観測対象はともに、分割も分析も不可能な一なる全体的実在の相互浸透し合っている二つの側面にすぎない」

29ページの7～10行目

「古典的原子論においては、宇宙の究極的な構成要素は、分割不可能な小さな物体すなわち剛体でなければならない。」

29ページの11～14行目

「しかし相対性理論によれば、世界が原子という「建築ブロック」から構成されているという考えを捨て去ることが必要である。」

29ページの14行目から30ページの1行目

「事象と過程から成る普遍的な流れという観点から、世界を考察しなければならない。」

30ページの1行目から31ページの2行目

「粒子を考えるかわりに、図1のAとBに示されているような「世界管」を考えなければならない。・・・流れの中の渦のような構造を持った波動を考えれば、世界管のイメージはもっと鮮やかになる。図2に示されているように、・・・この二つの渦は・・・思考様式によって作られた抽象である。・・・抽象された二つの流れのパターンは、流れの一なる全体的運動の中で混合しており一体となっている。両者の間に、明確な区別はない。二つの渦は、ばらばらな独立した存在物ではない。」


31ページの3行目
「相対性理論は、原子論の代わりに、この種の見方を採用する
ように要求している。」

31ページの3～9行目
「原子論の見方では、・・・全物質を原子が構成している。
これに対して、・・・この分割不可能な全体の中で、・・・宇宙の
すべての部分が一なる総体性の中で混じり合い一体となっ
ている。この総体性の観点から見ると、原子論的形式の洞察は、
ある限られたコンテキストの中でのみ妥当な単純化であり
抽象である。」

返信

おすすめ

メッセージ 4 / 22

投稿者:  SourceCodeOfHumanGenome

投稿日時: 2006/06/16 18:21

ボームは、27ページで、
「たとえば、原子論を考えてみよう。・・・明らかにこの見方は、
いくつかの点で全体性を理解するための重要な一様式であった。」
と述べており、
したがって、ボームの用語法において、
「世界の分割不可能な全体性」を認めない考え方とは、
たとえば「原子論」のことだ、
とは断言できませんが、
それ以外の部分を見れば、少なくとも、
「原子論」を、自然の素描ではなく、自然のありのままの姿だ、
と考えることは、
「世界の分割不可能な全体性」を認めない態度だ、
と言えると思います。
それが、ボームの言う「原子論」であり、
ボームの言う「分割不可能な全体性」です。

以後簡単のため、
「原子論」を自然のありのままの姿だ、と考える事を、
単に「原子論」と呼ぶことにします。

返信

おすすめ

メッセージ 5 / 22

投稿者:  SourceCodeOfHumanGenome

投稿日時: 2006/06/16 18:40

ボームの言う「分割不可能な全体性」というものが何であるかを
明らかにするために、
ボームの言う「原子論」とは何なのかを考えてみます。

ボームの言う「原子論」というのは、
普通に言うところの「原子論」とは異なります。

普通に言うところの「原子論」は、たとえば、
クォーク理論の成立を、成立前から、そういう理論があるはずだ、
という風に予見する態度だと思えます。
クォーク理論は量子論の枠内で見事に定式化されますので、
ボームによって「量子論とは相容れない」とされる「原子論」は、
そういうものではありません。

ウツカリなのか、ボームにも「原子」という言葉を、
普通の意味で用いている件があります。

28ページの13,14行目

「原子は、明確な境界をもたない雲のようなものとみなしうる
のである。」

返信

おすすめ

メッセージ 6 / 22

投稿者 :  SourceCodeOf HumanGenome

投稿日時 : 2006/06/16 19:17

ボームの言う「原子論」(を自然のありのままの姿だと考える事)は、
「実在全体が実際には多かれ少なかれ機械的に作用しあっている
単なる「原子という構成要素」から成るとする考え方」の事です。

そして、「原子」は、
「分割不可能な小さな物体すなわち剛体でなければならない」
とする考え方の事です。

明らかに、この「原子論」は、ボームに依れば、
「互いに関連を持たないばらばらな諸断片から
世界や人間が実際に構成されている」
とする考えの事であり、それ故、
原子同士の間にも機械的な相互作用があっても、
その事を理由に
「原子は互いに関連を持っている。ばらばらではない」
とは言わない、
というのが、ボームの用語法だと分かります。
つまり、ボームは、
「関連」という語や「ばらばら」という語を、
そういう意味において用いている、ということです。

ボームの言う「原子論」は、こういうものであり、
したがって、ボームの言う「世界の分割不可能な全体性」は、
世界が、このような意味での「原子論」とは異なること、
だと言えます。

返信

おすすめ

メッセージ 7 / 22

投稿者 :  SourceCodeOf HumanGenome

投稿日時 : 2006/06/16 20:03

さて、
ボームの言う「世界の分割不可能な全体性」は、
ボームの言う「原子論」が間違っている事だとすると、

宇田の新文法によって表わされる量子歴史の分解不能性は、
ボームの「分割不可能な全体性」とは異なります。

なぜなら、ボームの指摘するように、
ボームの言う「原子論」が間違いだ、という認識は、
量子力学の到来と共にもたらされたのであって、※
古典論から量子論への移行に伴うものであるのに対し、
宇田の量子歴史の分解不能性の概念は、
古典論から既存の量子論への移行を生じさせるものではなく、
既存の量子論の文法から宇田の新文法への移行を生じさせるもの、
だからです。

直感的に言うならば、
ボームの言う「原子論」的分割は空間的であり、
宇田の分解不能概念における分解は時間的である、
という違いがあります。

※ 相対性理論も古典原子論を破壊した、

というボームの意見には、僕は不賛成。
なぜなら、原子が、大きさゼロ、長さゼロ、の完全な点、
である場合には、古典原子論は相対性理論に違反しないから。

◀ 最初の返信 ◀ 前へ 2-7 通を表示 : 総返信数 22 通 次へ ▶ 最新の返信 ▶
◀◀ 国際文法裁判所 に戻る ◀ 前の話題 次 の話題 ▶ ◻ 返信を受信トレイに送信

注意 : Microsoft は、このコミュニティの内容について、一切の責任を負いません。ここをクリックすると、詳細情報が表示されます。

家族のインターネット MSN プレミアムウェブサービス

MSN ホーム | Hotmail | ニュース | ショッピング | マネー | スペース

ご意見ご感想 | ヘルプ

©2006 Microsoft Corporation. All rights reserved. 使用条件 プライバシー 迷惑メール対策